

平成 20 年 10 月 24 日

ルネサンス高等学校



## 平成 19 年度ルネサンス高等学校自己評価書

### 1. 学校の概況（平成 20 年 3 月 31 日現在）

学校名	ルネサンス高等学校	課程	通信単位制・普通科		
学校長	桃井隆良	教職員	教頭 1 名 教諭 5 名	事務長 1 名 職員 5 名	合計 13 名
生徒数	【入学定員 2,000 名】	計 432 名			

- 平成 19 年度スクーリング参加生徒数：366 名（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日に行われたスクーリングに参加した生徒の数。入学時期等により平成 20 年 4 月 1 日以降のスクーリングに参加する生徒あり。）
- 卒業生：通算 101 名（平成 20 年 3 月現在）  
（平成 19 年 3 月：18 名、同 9 月：1 名、平成 20 年 3 月：82 名）
- 卒業生の進路：大学・専門学校等への進学 50%、就職 18%、  
その他（家事手伝い等）32%（平成 20 年 3 月現在まで確定分）

#### （概要）

平成 19 年度は、開校 2 年目にあたり学校運営の基盤を固めた年度であった。

在籍生徒数は、135 名（平成 19 年 3 月末）から 432 名（平成 20 年 3 月末）まで大幅に増加した。

平成 19 年 9 月に 1 名、平成 20 年 3 月に 82 名の卒業生を送り出した。多くの卒業生が希望する進路へ進んだ。

生徒数の増加に応じ教員及び職員を増員した。

#### 【当初目標の進捗率】

$$\text{生徒数 } 432 \text{ 名} \div \text{入学定員 } 2000 \text{ 名 (当初目標)} = 22\%$$

#### （自己評価）

##### ■成果が認められる点：

- ① 募集活動の強化により、在籍生徒数が前年度から大きく伸張したこと。
- ② 多くの生徒がスクーリングに参加し、大子町で自然体験活動等を行ったこと。
- ③ 多くの卒業生を送り出したこと。
- ④ 卒業生の多くが希望の進路へ進めたこと。
- ⑤ 生徒数の現況及び学則に沿った適切な教職員の配置を行っていること。

#### ■さらに努力すべき点

- ① 当初目標（入学定員 2000 名）に対する進捗率が 22%であるため、一層の生徒獲得に努めること。
- ② スクーリングへの参加指導を計画的・体系的に行い、各回の参加者数を安定的に確保すること。
- ③ 電話・eメール・Webカメラ等による定期的な接触を行い、生徒の学習フォローをさらに充実させること。もって、より確実に卒業まで導くこと。
- ④ 進路支援に一層注力し、より多くの生徒の希望進路を実現すること。

## 2. 目指す学校像

ルネサンス高等学校の建学の精神は、「教育のルネサンス（再生そして進化）」。その実現のため「一人ひとりの可能性を追求する」「目覚めよ！自分力」を教育理念とし、次の5つの支援体制をとっている。

- I. eラーニングシステムを使って基礎学力の徹底
- II. 学ぶ楽しさを体験する科学の授業等を通して生涯学び人を育成
- III. 高校課程を速習し、残った時間を海外留学や進学対策に活用することを支援
- IV. 芸能・理美容・海外留学等の提携するスクールとのダブルスクールによって「やりたいことにチャレンジする」ことを支援
- V. インターネットをはじめとする最新 IT をフル活用して徹底的個人指導と親身なサポートによるユビキタス学習を支援

（自己評価）

#### ■成果が認められる点：

- ① インターネット又は携帯電話を使ってレポート提出が出来るシステムを有しており、生徒がいつでもどこでも学習できる環境を実現していること。
- ② インターネットや携帯電話では提供できない体験学習を、スクーリング時、大子町の豊かな人文・自然環境のなかで提供し、参加者から一定の評価を得ていること。
- ③ 芸能コースや海外留学コースなどを設定し、実際に生徒がチャレンジしていること。

#### ■さらに努力すべき点

- ① スクーリング参加が2回目以上となる生徒のために、自然体験学習の内容にバラエティ・変化を持たせるよう工夫すること。
- ② 基礎学力が十分身についた生徒のために、より高い学力の獲得を目指すプログラムを整備すること。

## 3. 生徒指導

担任教員が日常的に電話・eメール・Webカメラ・面会の方法により、生徒や保護

者の悩みや要望を把握している。指導上特に配慮を要する生徒について、担任が指導の経過に関する記録を作成し、その行動特性や変容を見定め、職位会議の場等で情報共有を密に図っている。また、一般の高等学校同様に生徒指導、進路指導担当の教諭を配置し指導を行っている。

(自己評価)

■成果が認められる点：

担任教員が個別の生徒に対し適時かつ定期的に接触を持ち、生徒ばかりでなく保護者の悩みや相談にのるなど、生徒指導が手厚いこと。

■さらに努力すべき点

入学時等に生徒のeメールアドレス・携帯メールアドレス等を完全に把握し、個別の指導にあたり、より効率の良い接触方法を確立すること。

#### 4. 施設及び設備

本校の校舎は、「高等学校通信教育規程」に規定する施設（教室、図書室、保健室、職員室）及びスクーリング時の教育に必要な設備（視聴覚設備、図書、保健関係備品等）を備えている。

また、本校は、旧浅川小学校の廃校跡地活用という地域ニーズにより設置されたため、旧小学校の校舎面積及び運動場の面積をそのまま引き継ぐが、1回のスクーリング参加者数は多くて40名前後であるため、教育活動に支障が生じていない。

(自己評価)

■成果が認められる点：

本校の校舎は、スクーリング時に使用する校舎として十分な施設・設備を備えていること。

■さらに努力すべき点

生徒が利用する給水設備及び飲料自動販売機を設置するなど、きめの細かい配慮を行うこと。

以 上